

松尾市長の公約の注目ポイント＆解説②

【任期4年間で取り組む政策】

- ・**図書館**の環境を充実（什器の魅力化や設備のデジタル化など）して、全世代みんなが読書を楽しめるまち鎌倉を目指す（本庁舎との複合化による図書館の充実もくわえる）。
→市庁舎機能の一部を深沢に移転し、現庁舎では図書館の複合化を目指しているものと受け取れる。細川も当選前から訴えているが、デジタル化が進む中、本を借りる場所としてだけでなく、カフェや子供の遊び場等、居場所としての図書館の設置を求める。
- ・**「テレワーク・イノベーションラボ」**の創設：深沢地域に、起業家やリモートワーカーが利用できる環境を提供。高速インターネットとAIツールを備え、起業支援プログラムを導入し、鎌倉を知的なハブとして発展させます。
→高速インターネットやAIツールは自宅で個人でも利用できるのでは？若手企業支援とあるが、進学先が限られる鎌倉市内では、都内や横浜へ出てしまう人も多い。都内や横浜に劣らぬ魅力ある環境づくりができるか、深沢のまりづくり全体として課題。
- ・**深沢整備事業用地にグラウンド、総合体育館の整備を進めます。**
→プロチームとの連携の話も。スポーツ環境が整うことは良いが、運営コスト等現実性を。
- 【現在進行中のプロジェクト（引き続き取り組みを進める）】
- ・**扇湖山荘**の活用：寄附当時の利用用途である「研修厚生施設」として、令和6年度に民間団体の公募を行い、一般社団法人鎌倉ルネサンスを優先交渉権者として決定。基本協定を締結。現在、優先交渉権者と、建物や庭園の整備方法、事業の実施方法等について協議中。協議が整えば、基本契約を締結し事業に着手。
→2010年に寄付されてから活用されていない。募集要項には「事業予定者は、自らの費用により、提案施設を良好な状態に維持管理しながら、本事業を実施する」とあるが立地や使用用途の制限により事業者側の採算がとれるのか？
- ・**旧野村総合研究所**：神奈川企業庁から、老朽化が進む極楽寺地内にある配水池の更新にあたり、用地の一部を利用することについて協議依頼を受け、現在神奈川企業庁と協議中。配水池の整備と民間事業者による利活用を両立する方法を検討。
→2002年の寄付時から活用方針が二転三転。2018年「公的不動産利活用推進方針」策定を受け「自然環境を生かした利活用（市民への開放含む）+研究開発系の企業誘致」の二本柱で再定義、2019年から民間事業者の募集を開始するものの、20年、21年と相次いで事業者側が辞退。土地の少ない鎌倉市で貴重な土地であるが、長期にわたって有効に活用できていない。市民のための利活用、例えば子供の遊び場、ゴミ処理施設、宿泊施設、商業施設の開設等、様々な提案がある中で実現に漕ぎつけられるのか市長の手腕が問われる。
- ・**大船駅東口駐輪場**（令和7年3月老朽化により閉鎖）老朽化対策の上、駐輪場として運用。
→いつ？大船駅の駐輪場不足は深刻。担当課は需要調査も実施していないとの回答。早急な需要調査の実施と、駐輪可能台数の増加を求める。（詳細は右ページへ！）
- ・**新庁舎整備**について：本庁舎の位置を変えずに、大規模災害が発生した際にも行政の業務を継続できるよう防災機能を備えた新たな庁舎を深沢地域に整備。位置条例の変更はなし。
→老朽化により現庁舎の維持は困難。二拠点間の移動は？非効率にならないようデジタル技術の活用などが課題。
- ・**ごみ処理体制**：独自に焼却施設を整備するのではなく、広域的な連携による効率的な処理を選択し、財政負担を軽減。
→逗子葉山二市一町との計画では鎌倉市は生ごみ処理施設の建設を約束。
今泉クリーンセンター付近では臭いによる反対もある中で今後の対応は？

市民の声を取り入れ、政策に反映している点では期待する一方、松尾市長がどんなまちづくりを実現したいのか、その大義、熱量がどこにあるのかが感じられなかったことは少し残念に思います。



4年間でこれらの政策が実現されるか、市民の目でチェックしましょう！

大船駅の駐輪場整備について 超党派で要望書を提出

大船駅周辺では、西口サイクルパークの閉鎖、東口駐輪場の閉鎖で駐輪可能台数が減少。朝の8時台には満車となることが多く、保育園等に子どもを送ってから通勤する人や、買い物や通院等で日中に来訪する人が駐輪できない。

バスの減便により、自転車やバイクの利用者が増加している可能性も考えられる中、駐輪需要の把握と、需要に合った駐輪場の整備を求め、岡田議員、重黒木議員、大石議員、岸本議員、細川の超党派で17日、市長あてに要望書を提出した。

【背景】

(1) 定期利用枠の空き待ちの常態化

西口サイクルパークの閉鎖に伴い、大船駅西口駐輪場、大船駅西口交通広場駐輪場の原付の定期待ち台数はそれぞれ100台超え。東口の各市営駐輪場の自転車の定期枠は全て満車。定期契約ができなかった人は一時利用枠での駐輪となり、毎日確実に駐輪できるか不安を抱えながらの通勤通学が常態化している。

(2) 日中の一時利用枠の慢性的な満車状態

朝の8時台にはほぼ満車となるため、特に保育園等に子どもを送ってから通勤する利用者は、自転車以外の通勤方法を検討しなければならず、希望園の縮小に繋がり、就労を断念せざるを得ないといった声も。

(3) 自転車大型化・バリアフリー未対応

前後かごやチャイルドシート装着等による自転車の大型化や、車体を持ち上げることができない高齢者の増加等により、二段ラックへの収納ができずに場内の通路への駐輪も散見される。また、スロープを上らなければならない構造が多いため、高齢者や子連れには利用しづらく、路上駐輪の要因にもなっている。

(4) 公共交通ダイヤの見直しに伴う自転車需要の増加

近年のバス減便等により駐輪ニーズが増加している可能性が高い。市は駐輪需要の実態調査は未実施。路上駐輪の増加や、通勤通学層の市外流出にも繋がりがねない。

【要望事項】

1. 新規開設や、地下化、立体化、スライドラック導入等による駐輪可能台数の増設
2. 駐輪需要を把握する実態調査の実施、収容台数の再設定と段階的な増設計画の策定
3. 高齢者や子育て層が利用しやすい、スロープ依存型の設計や二段ラックの見直し

鎌倉市議会議員

細川 まなか

平成元年生まれ、台在住の二児の母。
小学生と幼児の二児の育児をしながら、要介護5の難病の父親の介護に奮闘中。
経産省 OPEN CARE PROJECT AWARD2023 受賞
お茶の水女子大学付属高校、麻布大学 獣医学部卒
元食品メーカー開発担当、元ANAグループ



各種SNSはこちらから



YouTube

